

1 単元 可能性は無限大！？私たちの修学旅行プラン！

～Where do you want to go? (ONE WORLD Smiles 5年)～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、「聞いて聞いて、自慢の家族！ ～I can run fast.～」において、自分、または第三者のできること、できないことを紹介する経験をしている。そこでは、質問して得た、紹介する第三者の情報を整理し、自分の考えを伝える基礎的な力を育成してきた。しかし、英語で紹介するということだけに集中してしまうあまり、一方的な紹介となり、紹介を聞く相手へ理解を促すための工夫を取り入れる子どもは少なかったと思われる。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

<教材について>

本教材は、自分の行きたい場所やそこでしたいことなどを相手に伝えたり、相手がどこで何をしたいかを尋ねたりして、考えを伝え合う教材である。子どもは、自分の考えを一方的に伝えるだけでは、共感が得られないことから、紹介を聞く相手を意識して紹介する工夫を取り入れるだろう。ここでは、今までの学習の中で行ってきた紹介を振り返りながら、考えを伝えるための英語表現や伝え方の工夫を用いて、整理した情報を相手に伝えることを大切にしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 単元導入時に、6年生による修学旅行おすすめプランの紹介動画を視聴する活動を設定する。そうすることで、来年度の修学旅行への思いを高め、学習する目的や場面を理解し、今後の見通しをもつことができるようにする。
- 紹介を評価するための観点を子どもと決める活動を設定する。そうすることで、目指すべき紹介の様子が明確になり、目指す姿と自分たちを比較し、自分の紹介を振り返って改善点を見付けたり、今後の紹介をよりよいものにしようとしたりすることができるようにする。
- 単元終末に、自分たちで決めた観点をもとに、一番よいと思われる紹介を決める場を設ける。そうすることで、自己評価と他者評価のどちらも知ることができ、お互いのよさや改善点に気付くことができるようにする。

3 目標

相手に自分の行きたい場所やしたいことをよく知ってもらったり、相手の行きたい場所やしたいことをよく知ったりするために、修学旅行プランについての短い話を聞いて概要を捉えたり、自分や友達の伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。また、自分の考えた修学旅行プランについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えている。

本学園の外国語科部では、既得の知識や経験を生かしてコミュニケーションを図ろうとする子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、いろいろな話題で、互いの想いを伝え合い、ジレンマに対処する姿だと捉えている。本単元においては、評価の観点を子どもとともに考え、決定し、振り返る活動を設定する。子どもたち自身が決めた観点に向けて、自らよりよいと思う学びをめざして、単元での学びだけでなく、既得の知識を生かしたり、子ども同士で協働して学習を進めようとしたりする様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、目的・場面・状況に応じた適切な表現を考え、自分の想いを伝え合うことを通して、他者理解を深めながら、社会（他者）と良好な関係を築くことができるようになり、well-beingの実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 7時間）

本単元における評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>〈知識〉 “I want to go to ~.”や希望を伝える“I want to ~.”，“Where do you want to go?”の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 相手がどこに行きたいか、そこでしたいことは何かなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>	相手の行きたい場所やしたいことなどをよく知るために、具体的な情報を聞き取っている。	相手の行きたい場所やしたいことなどをよく知るために、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと 「発表」	<p>〈知識〉 “I want to go to ~.”や希望を伝える“I want to ~.”，“Where do you want to go?”の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 自分の行きたい場所やしたいこと、理由を伝える表現などを用いて、理由や気持ちなどを話す技能を身に付けている。</p>	相手によりよく分かってもらえるように、修学旅行で行きたい場所やそこでしたいことなどについて、考えや気持ちなどを話している。	相手によりよく分かってもらえるように、修学旅行で行きたい場所やそこでしたいことなどについて、考えや気持ちなどを話そうとしている。

※本単元における「書くこと」については、目標に向けて指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

単元終末における評価の観点（子どもが挙げそうな例）

- ・聞いている人も楽しめそうな内容が含まれている
- ・聞く相手の理解を促す英語表現や工夫（ジェスチャーや提示資料）がある など

本単元における学習計画と評価

次	学習活動・内容	評価						
		知技	思判表	態度				
①	<p>○ 6年生による修学旅行おすすめプランの紹介を聞き、単元の見通しをもつ</p> <p>・希望を伝える英語表現</p>	本向	時	で	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ
	<p>㊦ エージェンシーを発揮するための手立て</p>							
	<p>㊦ 具体的な場面を想像させたり、実際に修学旅行に行ったりする機会を設けたり、本単元に取組むことができるようにする</p>							
③	<p>○ 修学旅行先について、選んだ理由を伝え合う</p> <p>・理由を伝える英語表現</p>	発						
	<p>○ 個人で修学旅行プランを計画し、紹介するための準備を行う</p> <p>・計画を伝えるための英語表現</p>	本向	時	で	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ
3/3	<p>● 互いの修学旅行プランを聞き合い、単元終末の観点を決める</p> <p>・単元終末のスピーチにおける評価の観点</p>	発	発	発				
	<p>㊦ 本単元の終末に行うプレゼンに必要な英語表現を伝えることができるようにする</p> <p>㊦ 観点を自分達で決めることで、ゴールを明確にし、めざす方向性を揃えて学習に向かうことができるようにする</p>							
③	<p>○ 班で修学旅行プランを計画する</p> <p>・班の考えを伝えるために必要な英語表現</p>	本向	時	で	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ
	<p>○ 修学旅行プランについてのプレゼン練習を行う</p> <p>・評価の観点に対する自分たちの紹介の評価</p>	本向	時	で	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ
	<p>○ 修学旅行プランを紹介し合う</p> <p>・評価の観点に対する他のグループのよさや自分たちの紹介の改善点</p> <p>・今後の見通し</p>	聞	発	発				
	<p>㊦ アレバパンをいっしょに食べよう</p>							

6 本時案 ー第二次・3時分ー

- (1) 主眼 個人で計画した修学旅行プランを紹介し合い、一番よいと思うプレゼンターを選ぶ活動を通して、どうすれば相手によく伝わる紹介になるのかに気付き、そこから単元終末における評価の観点を決めることができる。
- (2) 準備 振り返りシート、ピクチャーカード など
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 個人で計画した修学旅行プランについて、班で紹介し合う</p> <p>自分の考えた修学旅行プランを紹介しよう</p> <p>・行きたい場所を伝える英語表現</p>	<p>ア 私は東京で観光がしたいよ。だから、“I want to go to Tokyo. I want to take pictures at Sky Tree.”と伝えるよ</p> <p>イ 僕は広島で野球を観たいから、それをプランに取り入れたよ。“I want to go to Hiroshima. I want to watch the baseball game.”と言ってみよう</p> <p>ウ 私は京都に行きたいな。“I want to go to Osaka & Kyoto. I like matcha. So, I want to drink matcha.”と好みも伝えてみようかな</p>	<p>・ 前時までに個人で計画した修学旅行のプランを班で全員に伝えさせることで、様々な内容の紹介があり、評価するには基準があることに気付くことができるようにする</p>	20
<p>2 修学旅行プランについての紹介を聞いて、一番よいと思うプレゼンターを決める</p> <p>一番よいと思うプレゼンターは誰か。それはなぜか</p> <p>・自分の考えを相手に伝えるために気を付けたいポイント</p>	<p>ア Aさんは、伝えるときにジェスチャーを用いていて、聞いていた私にとってはとても分かりやすかったから、Aさんが一番よかったと思うよ</p> <p>イ Bくんの修学旅行なら僕も楽しめそうだから、Bくんの紹介が一番だと思うな</p> <p>ウ 何を大事にして一番を決めるかは人それぞれだね</p> <p>エ 評価する観点を先に決めておくと、お互いに評価しやすいね</p>	<p>・ 班のメンバーが何をもとにその人物を選んだのかを明らかにすることで、考えを伝えるためには、いろいろな工夫の仕方があることに気付くことができるようにする</p> <p>・ 選んだ基準を統一することで、全員にとっての「一番」を選びやすくなるということに気付くことができるようにする</p>	30
<p>3 互いの紹介のよい点をもとに、単元終末での評価の観点を決める</p> <p>クラスでプランを紹介し合い、代表を決めるときの基準は何か</p> <p>・単元終末の評価の観点</p>	<p>ア 伝わりやすさは大事だよ。ジェスチャーがあると、相手にわかってもらいやすいからある方がいいと思うよ</p> <p>イ 伝え方も大事だけど、自分たちが楽しめるというのも大事だと思うから、内容も大切にしたいね</p> <p>ウ クラスのみんなにも行きたいと思ってもらえる紹介じゃないとだめだね</p>	<p>・ 教師が評価の観点を提示するのではなく、子どもと作り上げることで、プレゼンターとして目指したい姿が明確となり、自分で学びを進めたり、自己を振り返って学びを調整したりすることができるようにする</p>	45

(4) 評価規準と方法

選んだプレゼンターのよいところに気付き、自分の紹介がどうであったか、今後の紹介で意識したいことは何かを見付けることができたか、発言や振り返りからみとる

<メモ>

1 単元 『推しの魅力』で後輩と築こう！友情の輪！
～New Horizon1年 Stage Activity 2 My Hero～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、これまで4技能の中で、特に話すことでは実際のコミュニケーションを意識して活動している。子どもは、be動詞や一般動詞、疑問詞を用いた疑問文や答え方、過去形などさまざまな表現を学び、発表やあるトピックについてペアでやり取りすることにも少しずつ慣れてきている。しかし、自分の好きなことや興味があることについての即興的なやり取りの中で、具体的にわかりやすく説明することや、相手の答えに関連する質問をさらに続けたり、答えたりする経験についてはまだ少なく十分とは言えない。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

<教材について>

本教材は、Stage Activity 1, 2, 3を合わせて単元化し、自分が好きな物事や人物、学校行事にトピックを少しずつ変えて、発表や即興的なやり取りが段階的にできるようになることをねらいとした教材である。特に、本時が含まれる二次やその後の三次では、小学6年生と交流する場を設定している。子どもは、小学生の反応を見て、習った語句や表現をそのまま使うのでは共通理解が難しいことから、小学6年生に分かりやすく『推しの魅力』を伝えるための工夫を考えるだろう。ここでは、他者意識をもって、適切な内容や表現、効果的な伝え方を工夫して発表することや、質問したり、答えたりすることを大切にしたい。そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 第一次では、「自分の好きなこと」について、伝える内容やその表現について考え、確認する場を設定する。そうすることで、その表現を用いてマッピングを基にやり取りし、自分の好きなことについて適切な表現を考え、自信をもって活動できるようにする。
- 第二次では、「世界で活躍する日本人」について、クイズ形式で伝えるための内容や表現を確認し、発表の評価規準を子どもと一緒に考える活動を設定する。そうすることで、他者意識をもって適切な表現を考え、効果的に伝え合うことができるようにする。
- 第三次では、「附中の学校行事等の魅力」について、子どもが考えた「発表の評価規準」を確認し、発表とやり取り、振り返りを設定する。そうすることで、自己評価や改善の気付きをもち、次の学びへとつなげることができるようにする。

3 目標

自分の好きな物事や人物の魅力について、他者（同級生や後輩）に事実や自分の考え、想いを伝えるために、説明することや、質問したり、答えたりして表現することができる。

4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えている。

本学園の外国語科部では、既得の知識や経験を生かし、コミュニケーションを図ろうとする子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、いろいろな話題で互いの想いを伝え合い、ジレンマに対処する姿だと捉えている。本単元においては、自分の『推しの魅力』について、伝える内容や適切な表現を考え、さらに、効果的な伝え方については、子どもと教師がともに評価規準を考えて決定する場を設定する。そうすることで、子どもは、自分たちが決めた発表の評価規準を目標として、既得の知識や経験を生かし、内容や表現、伝え方を工夫して、ジレンマに対処する姿こそがエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、目的・場面・状況に応じた適切な表現を考え、自分の想いを伝え合うことを通して、他者理解を深めながら、社会（他者）との良好な関係を築くことができるようになり、well-beingの実現につながるだろう。

5 本単元における指導と評価の計画（総時数 8時間）

次	学習活動・内容 ㊟エージェンシーを発揮するための手立て	評価			評価規準〈評価方法〉
		知技	思判表	態度	
一 ②	○ 「互いの新たな一面発見！」で教員のプレゼンで見通しをもつ（目的・場面・状況の理解） ・自分の好きな物事や理由、感想を伝える表現 ・反応や感想を伝える表現（聞く側）	R	SI	R	㊟教科書を参考にしながら、自分の好きな物事を伝えるための表現を確認する (My favorite～is～.等) <u>行動観察・ワークシート</u> 〈★記録に残さない評価〉 表現確認後のやり取りの観察やワークシートで、表現の理解の度合を確認する
	○ 自分の好きな物事について伝え合う ・マッピング&やり取り→発表 (内容、理由、感想のキーワードメモ) ・自分の好きな物事について、つながりのある文章表現 ㊟自分の好きな物事について、伝えたい内容（理由、感想等）とその表現について考え、確認する場を設けることで、自信をもって活動に取り組むことができるようにする	SP W	SP W	SP W	
二 ③	○ 「推しの魅力で後輩と築こう！友達達の輪！」で、小学6年生の発表「世界で活躍する日本人」を動画で視聴し、同じテーマで『ヒーローは誰だクイズ』を行うために、クイズ形式での発表とやり取りの表現を学ぶ ・好きな理由や感想の表現 ・推す人物の特徴やよさを伝える表現 ・伝える内容や順番（マッピング）	L R SI W	L R SI W	L R SI W	㊟小学6年生の発表を動画で見た後、教科書の例を参考にして、自分の好きな「推し」の「ヒーローは誰だクイズ」について伝えるための表現を確認する (like～ing, be good at～, can等) ㊟自分の「推し」の人物について伝えるために、適切な内容や表現を考えて選択して、話したり、書いたりしている ㊟その人物について伝えるために、適切な内容や表現を考えて選択して、話したり、書いたりしようとしている <u>〈行動観察・ワークシート〉</u>

<p>二 ③ 本 時 3 / 3</p>	<p>○ 「ヒーローは誰だクイズ」での発表ややり取りを行うための表現や順番のマッピングを基にクイズを発表しあい、代表者を決定した後、よい発表の観点を明確にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える内容（人物の特徴）や述べる順番のマッピング ・好きな理由や感想の表現 ・効果的な発表の評価規準 	<p>SI SP</p>	<p>SI SP</p>	<p>SI SP</p>	<p>◎「ヒーローは誰だクイズ」で自分の「押し」の人物について伝えるために、その特徴やよさについて適切な内容や表現を考えて選択して、話している</p> <p>◎その人物について伝えるために、その特徴やよさについて適切な内容や表現を考えて選択して、話そうとしている</p> <p>◎クイズを出し合った代表者を決定し、効果的なよい発表についての規準を考え、明確にすることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える内容や順番（理由、感想等）の確認 ・マッピング、発表とやり取り、振り返りの確認 <p><行動観察（記録動画）・ワークシート></p>
	<p>● 小学6年生に「ヒーローは誰だクイズ」で発表し、その後に質疑応答を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な発表の評価規準 ・発表とやり取りでの質疑応答の表現 <p>⊕「世界で活躍する日本人」という同じテーマで「ヒーローは誰だクイズ」を行うことで、伝えたい、当てたいという互いの想いが高まり、楽しみながら発表ややり取りの活動に取り組むことができるようにする</p>	<p>SI SP</p>	<p>SI SP</p>	<p>SI SP</p>	<p>●自分の「押し」のヒーローについて伝えるために、その人物の特徴やよさについて、適切な内容や表現を考えて選択して、話している</p> <p>◎その人物の特徴やよさについて、適切な内容や表現を考えて選択して、話そうとしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のよい発表の評価規準を確認 ・マッピング、発表とやり取り、振り返りの確認 <p><行動観察（記録動画）・ワークシート></p>
<p>三 ③</p>	<p>○ 「附中の魅力の後輩に伝えよう～青春物語中学1年生編～」で学校行事を伝える表現を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな学校行事についての表現や内容（過去形、理由、感想等） ・質問や答え方の表現 <p>○ 小学6年生に中学1年生から見た「附中の魅力や思い出の学校行事」について、発表準備と練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生に分かりやすい語句や文 ・伝える内容や順番 ・効果的な伝え方や評価規準 <p>○ 小学6年生に、「附中の魅力や思い出の学校行事」について、発表と質疑応答を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の表現 ・効果的な伝え方や評価規準 <p>⊕附中の学校行事等の魅力について、や小学生にわかりやすい適切な内容を、場を設け、発表を準備し、適切な伝え方を意識して発表する</p>	<p>L R SI W</p>	<p>L R SI W</p>	<p>L R SI W</p>	<p>◎教科書を参考にしながら、思い出の学校行事について伝える表現を確認する（My favorite event is～.等）</p> <p>◎自分の思い出の学校行事について、適切な内容や表現を考えて原稿を書き、話している（話そうとしている[態度]）</p> <p><行動観察・ワークシート></p> <p>◎自分の思う魅力的な学校行事について、適切な内容や表現を考えて、やり取りしたり、マッピングを基に話している</p> <p>◎自分の思う魅力的な学校行事について、適切な内容や表現を考えてやり取りしたり、話そうとしたりしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える内容（理由、感想等）や順番の確認 ・マッピング、やり取り、発表の規準の確認 <p><行動観察・ワークシート></p> <p>◎附中の学校行事について、小学生にわかりやすい適切な内容や表現を考え、よい発表の評価規準を意識して発表したり、質疑応答のやり取りをしたりしている</p> <p>◎附中の学校行事について、小学生にわかりやすい適切な内容や表現を考え、よい発表の評価規準を意識して発表したり、質疑応答のやり取りをしたりしようとしている</p> <p><行動観察（記録動画）・ワークシート></p>

6 本時案 ー第二次・3時分ー

- (1) 主眼 「ヒーローは誰だクイズ」で自分の『推しの魅力』について、小学6年生にわかりやすく伝える活動を通して、適切な内容や表現、伝え方を工夫して説明することや、質問したり、答えたりすることができる。
- (2) 準備 ワークシート、タブレット端末 など
- (3) 学習の展開 (「予想される子供の反応」の㊥は中学生、㊦は小学生の反応)

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 小・中学生が互いに自己紹介し、本時の課題をつかむ</p> <p>Let's enjoy "Who is the hero?" quiz! Let's talk about our heroes and ask questions and comments to know each other.</p>	<p>㊥ Hello. I'm ~. I like math and English. I'm on the tennis team. Nice to meet you.</p> <p>㊦ Hello. My name is ~. I like music. Nice to meet you, too.</p> <p>㊥ 互いを知るためにヒーロークイズをするのだな</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界で活躍する日本人の「推しの魅力」について、クイズをすることで、楽しみながら互いを知る活動ができるようにする 	10
<p>2 小学生と中学生がペアになり、「推しの魅力」をクイズで伝え合う</p> <p>Let's check about the good points, and enjoy the hero quiz in pairs. 中学生, first. Next, 小学生.</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝わりやすくするための工夫 質問や感想の表現 	<p>㊥ 発表の規準は、内容、表現、伝え方等だったな</p> <p>㊥ Hello. I'm ~. Do you like baseball? Who is he? He is handsome. He is about 190cm tall. He can run fast. He is good at throwing a ball fast.</p> <p>㊦ Throwing ?</p> <p>㊥ Oh, he is good at throwing a ball fast. (ジェスチャーをつけて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時に考えた発表の「評価規準」を掲示することで、意識して発表できるようにする 1回目のやり取りの後、伝わりやすくするための工夫や質問や感想の表現についてのよい例を共有することで、2回目での改善を促す 	30
<p>3 中学生の代表者と小学生の代表者が、全体にクイズを出し、質問や感想などをやり取りする</p> <p>Please tell us about your hero, ○○.</p> <ul style="list-style-type: none"> 反応やコメントの表現 質問や感想の表現 	<p>㊥ OK. Hello, everyone. I'm ~. Do you like singing? Who is my hero? He has long hair. He is good at writing songs. Lemmon is his song.</p> <p>㊦ Oh, Yonezu Kenshi?</p> <p>㊥ Yes! I like the song.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学生、中学生ともに、発表の際のよかった点を取り上げることで、具体的な工夫に気付くことができるようにする 	40
<p>4 振り返りで、感想や気づき、学びを共有する</p> <p>代表者の発表にはどんな特徴があったか。やり取りの質問や感想で出てきた表現は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表者のよい特徴 質問や感想の表現 	<p>㊥ 代表者の発表は、相手に伝わるような大きな声で、内容をくわしく伝えていた</p> <p>㊦ 中学生の発表のよい点も小学生と似ているな</p> <p>㊥ 今日の質問や感想で出てきた表現は、Clear voice was good.とかだな</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表のよかった点や使用した質問や感想の表現を確認し、自分の発表と比較することで、改善点に気付くことができるようにする 	50

(4) 評価規準と方法

互いの『推しの魅力』についてクイズで伝え合う中で、具体的に説明や理由、感想などを述べることや、質問したり、答えたりすることができたか、行動観察やワークシートの記述からみとる。

<メモ>